

噴火湾環境情報 No.1

発行：2026年4月23日
道総研函館水産試験場調査研究部
担当：鈴木

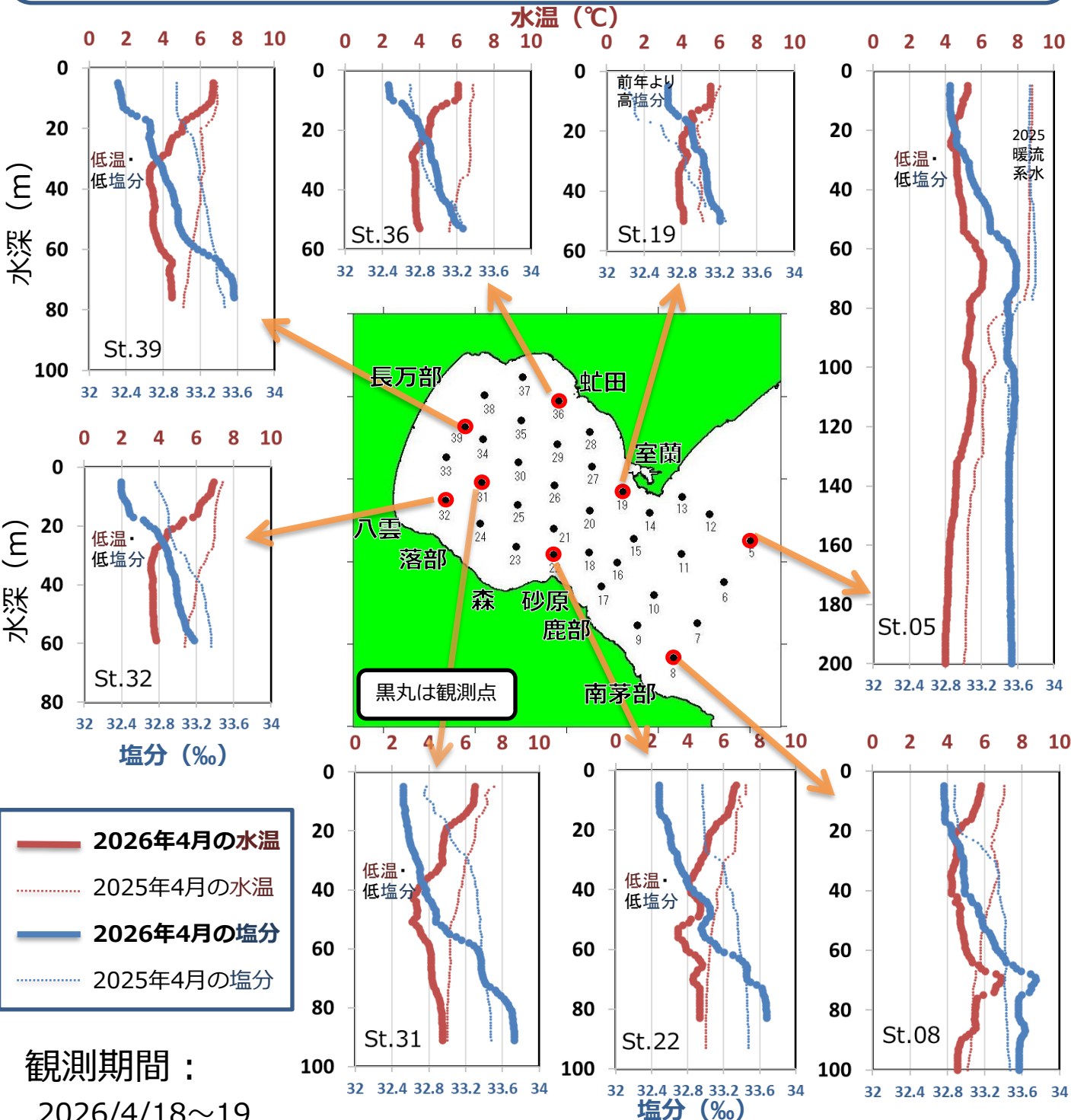


2026年4月18～19日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・潮流の観測結果をお知らせします。QRコードからもご覧になれます→

- ・噴火湾内は前年同時期と比べ全層で低水温, 胆振側湾口部を除き低塩分。
- ・冬季に親潮系水が湾内に流入し, 湾内の水の大部分は親潮系水に交換されたとみられる。
- ・湾内に時計回りの渦が形成されつつある。クロロフィルaは湾外で前年同時期より多い。

【水温・塩分の鉛直分布】

噴火湾内の表層は水温5～6℃台, 塩分32.3～32.6の範囲でした。30m以深では水温3～4℃台, 塩分は33前後でした。胆振側湾口部 (St.19) を除くほとんどの地点で前年同時期 (2025/4/23～24) と比べ低水温・低塩分となっていました。



観測期間：
2026/4/18～19

図1 噴火湾各地先の水温・塩分の鉛直分布

【水温, 塩分, クロロフィルaの水平分布】

■水温・塩分

2026年の湾内深度20mの水温は4~5℃台, 塩分は32.5~32.8の範囲で, 前年同時期よりも低くなっていました(図2)。低温で低塩分な親潮系水(水温 $\leq 3^{\circ}\text{C}$, 塩分 ≤ 33.3)は今年2月時点で湾内に流入していましたが, 4月にかけてさらに流入が進んだことで, 2月より低塩分化しています。

■クロロフィルa (※ホタテガイの餌の指標)

2026年は湾外の水深20mにおいて2~5 $\mu\text{g/L}$ と高い値を示していました。

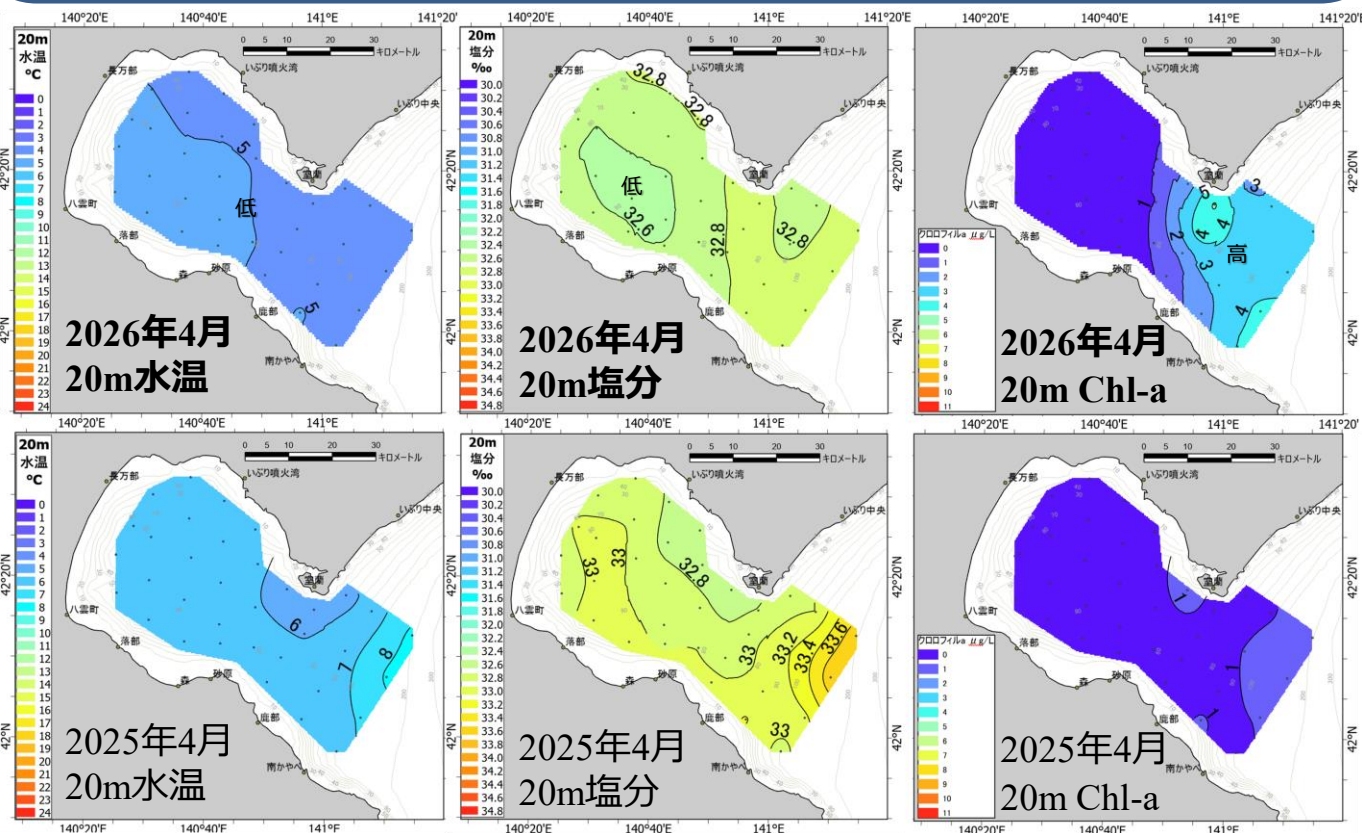


図2 水深20mにおける水温(左)・塩分(中)・クロロフィルa(右), 上: 2026年4月, 下: 前年同時期

【流向流速の水平分布】

水深13mでは胆振側の湾口部から噴火湾内に向かう流れが見られました(図3)。また, 夏季にかけて湾内表層が低塩・高温化すると噴火湾内に時計回りの渦が形成されますが, 2026年は4月時点で形成されつつあります。

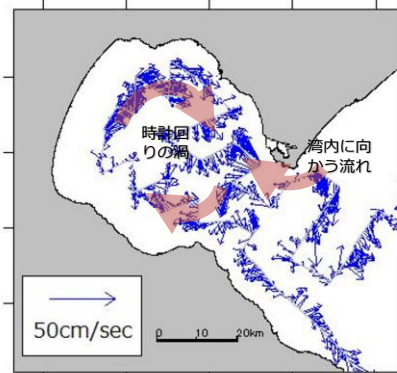


図3: 流向流速(深度13m)

【溶存酸素の水平分布】

2026年の湾内海底上5mの溶存酸素は3.2~5.8の範囲でした。湾内の渡島側では3ml/L台と前年同時期と比べ低くなっています。

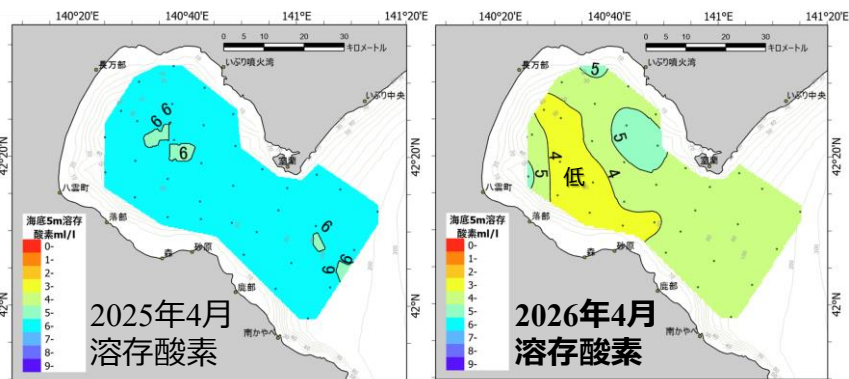


図4: 海底上5mの溶存酸素(左: 前年同時期, 右: 2026年4月)

【水温, 塩分, 溶存酸素, 密度の鉛直断面】

■ **水温・塩分**

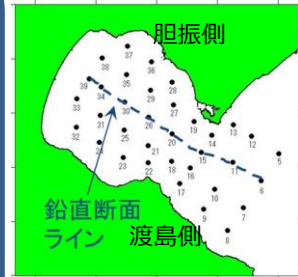
2026年4月の湾内における水温は30m以深で3~4℃台で, 2月および前年同時期よりも低くなっていました。40m以浅の塩分は32.8以下と, 前年同時期より低くなっています。

■ **溶存酸素**

湾内水深80m以深の海底付近では, 4ml/Lを下回っています。

■ **密度**

湾内表層では塩分の低下と水温の上昇に伴い, 湾外と比べて海水の密度が低く(軽く)なっています(図5右)。



※鉛直断面は海図の断面ラインを渡島側から見たものです

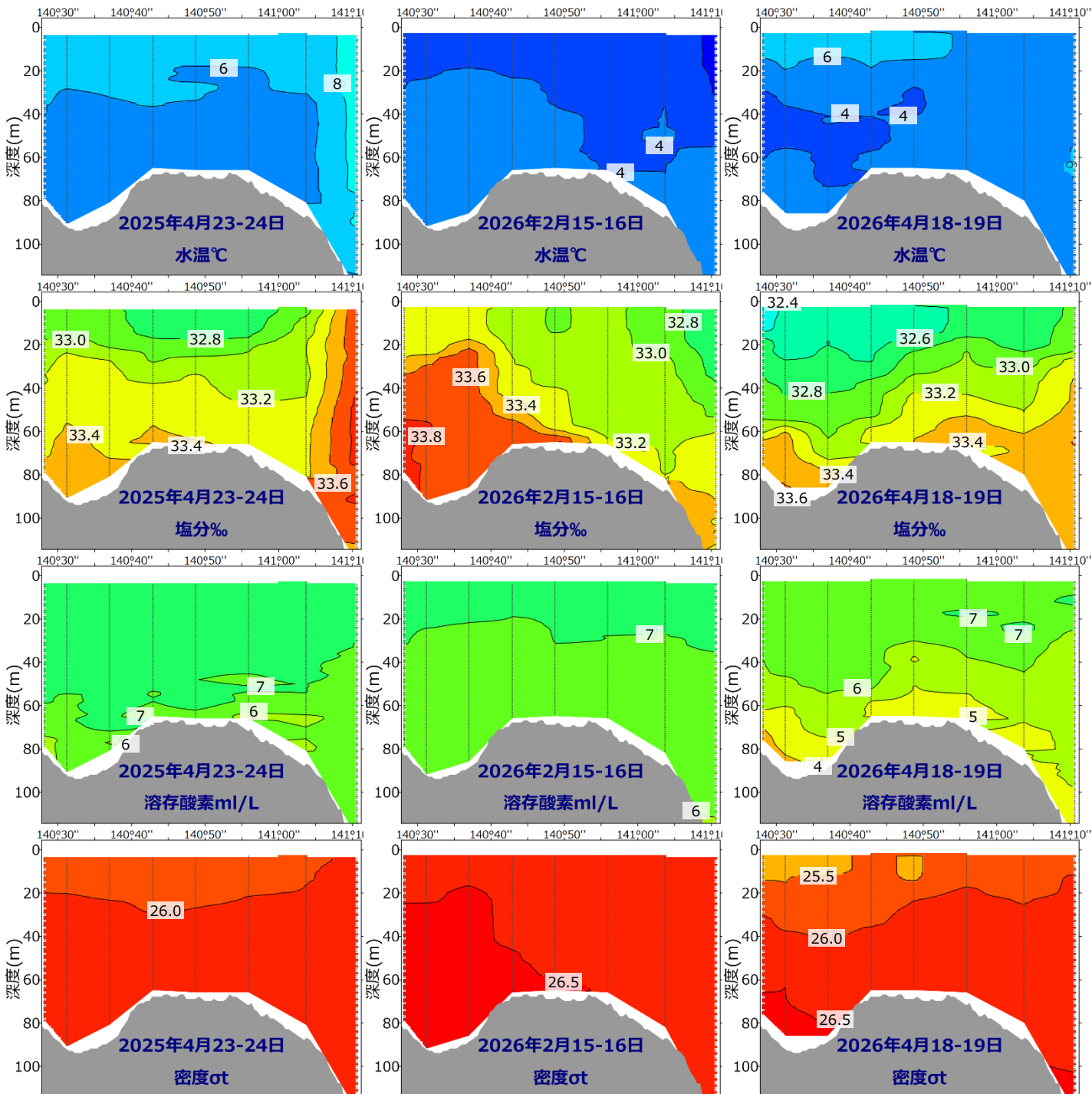


図5 左: 2025年4月(前年同時期), 中: 2026年2月(前回の調査), 右: 今回の調査
上から順に「水温」「塩分」「溶存酸素」「密度」